

家 庭

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の基本方針

ア 家庭科、技術・家庭科については、下記の課題を踏まえ、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視する観点から、その内容の改善を図る。その際、他教科等との連携を図り、社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを特に重視する。家庭科、技術・家庭科家庭科分野については、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもってよりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する観点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容の改善を図る。

イ 社会の変化に対し、次のような改善を図る。

(ア) 少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し、家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図るため、食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実するとともに、社会において主体的に生きる消費者をばぐくむ視点から、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。

(イ) 持続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し、技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の改善・充実を図る。また、情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し、安全かつ適切に技術を活用する能力の育成を目指す指導を充実する。

ウ 体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また、知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために、自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実する。

エ 家庭・地域社会との連携という視点を踏まえつつ、学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容の改善を図る。

【家庭科の課題】

- 自己と家庭、家庭と社会のつながりに目を向け、生涯の見通しをもって、よりよい生活を追求できる実践力の育成
- 家庭の在り方や家族の人間関係、子育てについて学習し、生活における自立とともに、他の人と連携し共に生きるための知識と技術の習得
- 食育や消費者教育の推進。持続可能な社会の構築の観点から、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立とともに、エネルギー資源や森林資源の有効利用など、社会で活用される様々な技術を評価・管理できる力の育成を目指した教育の充実
- 日本のものづくりを支える能力や技術を安全に活用できる力の育成 など。

(2) 改善の具体的事項

人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活を創造する能力と主体的に実践する態度を育てることを重視し、次のような改善を図る。

ア 家庭を築くことの重要性、食育の推進、子育て理解や高齢者の肯定的な理解や支援する行動力の育成など少子高齢社会への対応、日本の生活文化にかかわる内容を重視する。

イ 高校生の発達課題と生涯生活設計、キャリアプランニングなどの学習を通して、次世代を担うことや、生涯を見通す視点を明確にするとともに、生涯賃金や働き方、年金などとの関係に関する指導などを加え、生活を総合的にマネジメントする内容を充実する。その際、生涯にわたる生活経済や多重債務等の深刻な消費者問題、衣食住生活と環境とのかかわりなどを科学的に理解させるとともに、社会の一員として生活を創造する意思決定能力を習得させることを明確にする。

ウ 家庭科の学習を実際の生活と結び付け、課題解決学習を行うホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動については一層充実させる。

エ 「家庭基礎」においては、青年期の課題である自立と共生の能力をはぐくみ、生活設計の学習を通して、衣食住の科学的な理解を深め、家庭や地域の生活を主体的に創造する能力や態度を育てることを重視する。

オ 「家庭総合」においては、生命の誕生から死までの生涯を見通し、親の役割や子育て支援、人間の尊厳や高齢者の肯定的理解、介護、衣食住生活と生活文化や消費生活と資源・環境などについて総合的に扱い、実験・実習を通して科学的に理解を深めるとともに、主体的に家庭や地域の生活をマネジメントする力を育てることを重視する。

カ 「生活デザイン」においては、実験・実習を通して生活の技術的、文化的な意味や価値への理解を深め、将来の生活を設計し創造する力を育てるとともに、食育を推進するための実践力を高めることを重視した上で、一部の項目については選択して履修できるように構成する。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) マネジメントサイクルによる学習指導と評価の改善・充実

確かな学力を育成するために、次のマネジメントサイクルPlan『計画』－Do『実践』－Check『評価』－Action『改善』による学習指導等の改善・充実について説明する。

ア 生徒に身に付けて欲しい力など具体的な到達目標を設定し、指導計画や評価計画をはじめ、生徒が活用できるシラバスを作成する。『計画』

イ 到達目標を達成するため、実践的・体験的な学習の工夫をするなどして、効果的な指導方法を取り入れた授業を展開する。『実践』

ウ ワークシートを工夫するなどして生徒の学習成果を評価するとともに、生徒による授業評価等を取り入れるなどして教員自らが授業内容全体を検証する。『評価』

エ 生徒による授業評価等と生徒の学習成果の評価結果や教師による自己評価に基づいて、その後の学習指導等の改善を図る。『改善』

(2) 授業計画や評価計画の作成(平成19年度高等学校教育課程編成・実施の手引 P 70参照)

『計画』の段階においては、指導方法や教材等を工夫した授業計画や、具体的評価規準や評価方法を明確にした評価計画を作成することが重要である。次の【表1】には、科目「家庭基礎」(1)人の一生と家族・福祉 イ乳幼児の発達と保育・福祉の単元における授業計画例を、【表2】には、その単元中の授業指導案例を示した。

【表1】評価計画を盛り込んだ単元の授業計画例(7単位時間分)

指導項目 (計7時間)	学習のねらい	時間	生徒の学習活動 ※ 下線部は実践的・体験的学習の例	評価の観点※2			
				関	思	技	知
(ア) 乳幼児の心身の発達と生活 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の心身の発達と生活について理解することができる。 人間形成の基礎を培う乳幼児期の子どもと親とのかかわりに関心を持つ。 子どもの発達段階に応じたかかわりかたを考えることができる。 	1	・ある親子の記録ビデオの視聴を通じて、乳幼児の発達と生活、子どもと親とのかかわりについて関心をもつ。	◎	○	○	◎
		1	・ケーススタディの学習により、乳幼児期の親のかかわりについて考える。	○	◎	○	○
(イ) 親の役割と保育 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 親の役割と保育について理解することができる。 子どもを生み育てることの意義について考えることができる。 子どもの健全な発達のために、親や家族の果たす役割が重要であることを理解することができる。 ※ フラワーベイビーの保育の時間は含まないが、評価は行う。	1	・「フラワーベイビー」※1を作成し、保育体験の説明を聞き、関心を高める。	◎	○	○	○
		1	・3日間、常にフラワーベイビーを保育し、その体験から考えたことをワークシートにまとめる。	○	◎	◎	○
		1	・ディスカッションにより、保育に関して様々な意見があることを知る。	○	○	◎	○
(ウ) 子どもの福祉 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉の理念を理解できる。 子どもが育つ環境を親や家族、社会全体で支援していくことの必要性を理解することができる。 	1	・「働く母親と子育て」をテーマとしてロールプレイングを行い、児童福祉の現状と課題について考える。	○	◎	◎	○
		1	・グループごとのインターネット調査により、「認定子ども園」等について、特徴や必要性及び社会の現状を理解する。	◎	○	○	◎

※1「フラワーベイビー」については、P78を参照のこと。 ※2評価の観点における◎は、特に重視したい観点である。

【表2】上記【表1】中(イ)親の役割と保育(3単位時間)の授業指導案例

科目	家庭基礎	単元	乳幼児の発達と保育	クラス	1年 ○組
小単元の項目		(イ)親の役割と保育			
小単元の目標		<ul style="list-style-type: none"> 親の役割と保育について理解させる。 子どもを生み育てることの意義について考えさせる。 子どもの健全な発達のために、親や家族の果たす役割が重要であることを理解させる。 			
時間	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)	
1	<ul style="list-style-type: none"> 目標を確認する。 フラワーベイビーの学習活動について説明する。 フラワーベイビーを誕生させるための作成方法を説明する。 保育体験のルールを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習内容を理解する。 フラワーベイビーの学習活動について説明をまとめる。 次の手順でフラワーベイビーを生み出す。 <ol style="list-style-type: none"> 自分の誕生時の体重と同じ小麦粉を風船に入れる。 顔を描く。 おくるみ(バスタオル)で包む。 名前を付ける。 連続した3日間フラワーベイビーの親となり世話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の誕生時の体重を事前に調べるよう指示しておく。 生活に支障がある取組について事前に教職員・保護者への理解を得ておく。 実物を見せながら説明する。 学校生活、家庭生活における保育体験のルールについて具体的に説明する。 	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> 説明内容を聞き、フラワーベイビーに興味関心をもって作成している。 (評価方法) 観察・作品ワークシート 【思考・判断】 <ul style="list-style-type: none"> 3日間のフラワーベイビーの保育体験を通して、親の役割を考えている。 (評価方法) 発表内容ワークシート 【技能・表現】 <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児保育の基礎的・基本的な技術を身に付けている。 ディスカッションにより、子育てに関する自分の意見を発表することができる。 (評価方法) 観察ワークシート	
2	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布し説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えや感想をまとめ、記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な記入ができるよう個別に対応する。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションの目的を説明し、多くの意見を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションで自分の意見を発表する。 保育に関して様々な意見があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションが活発になるよう、KJ法を活用する。 		

(3) マネジメントサイクルによる学習指導と評価の実際

次に、マネジメントサイクルによる学習指導と評価の実際について示した。

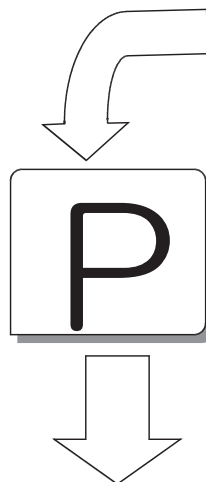
Plan(計画)～授業計画例をもとにして生徒が活用できるシラバスの例

単元名(1) 人の一生と家族・福祉 イ乳幼児の発達と保育・福祉

単元名 【乳幼児の 発達と保育】	どんな学習か?	何を学ぶか?	どのようなもので評価 するのか?	自分の取組を評 価しましょう。			
(7) 乳幼児 の心身の 発達と生 活	①ビデオを視聴し、意 見をまとめます。 ②ケーススタディによ り親子のかかわり について考えます。	乳幼児の体 の特徴や心の発達 を理解し、親の かかわり方を学 びます。	次の3つから総合 的に評価します。 ・ビデオ視聴の態度 ・小テスト ・定期テスト	A A A	B B B	C C C	D D D
(4) 親の役 割と保育	①フラワーベビーを 誕生させます。(自分 の誕生時の体重と同 じ重さの小麦粉を風 船に詰めます。) ②赤ちゃんの顔を描き、 名前を付けます。 ③3日間お世話します。 家庭での御協力をお 願いたします。 ④体験をもとにディス カッションします。	高校生として 今から身に付け る必要がある親 になるための知 識や技術につい て学びます。	次の3つから総合 的に評価します。 ・フラワーベビーと の過ごし方の観察 ・育児日記(ワークシ ート)の内容 ・子育てについてのデ ィスカッション	A A A	B B B	C C C	D D D
(ウ) 子ども の福祉	①「働く母親と子育て」 の現状と課題を考え ます。 ②「認定子ども園」を グループごとに調べ ます。	子どもの育つ 環境には、いろ いろな社会全体 の支援があるこ とを知り、児童 福祉について学 びます。	次の3つから総合 的に評価します。 ・「働く母親と子育て」 のロールプレイング の参加態度 ・「認定子ども園」の レポート ・定期テスト	A A A	B B B	C C C	D D D

A積極的に取り組んだ Bまあまあ取り組んだ Cあまり取り組まなかった D全く取り組まなかった

生徒による授業評
価を授業改善につな
げるためには、生徒
が指導目標や到達目
標を理解することが
大切である。
生徒は、シラバス
から到達目標を理解
し、評価の観点や方
法・手段を知ること
により学習意欲が高
まる。



Do(授業実践)～実践的・体験的な学習を取り入れた効果的な授業実践例

授業においては、体験から知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動をより重視する。また、体験から感じ取ったことを言葉で表現したり、まとめて発表し合うことなどを重視し、授業内容の改善を図る。

④ フラワーベビーのワークシート第1日目④ (月 日 曜日)

- 名前
- ①あなたのベビーは男の子ですか?女の子ですか?
②なぜ、あなたは、ベビーにその性を望んだのですか?
③あなたはベビーにどんな名前を付けましたか?
④どうしてその名前を付けたのですか?
 - これから世話をしていく中で、どのような問題があなたのベビーに起こると思いますか?
 - ベビーの“親”になることを通して、感じたことや考えたことなどを教えてください。

【関心・意欲・態度】
評価B(例)
女の子で名前は「さくら」です。僕は、兄弟しかいないので、女の子がいる家族を経験したいからです。兄弟や両親がどう受け入れるか楽しみです。

④ フラワーベビーのワークシート第2日目④ (月 日 曜日)

- 名前
- フラワーベビーの親であることのよい点と悪い点を挙げてください。
 - どんなときに、あなたは赤ちゃんを連れているのが難しいと感じましたか?それはなぜですか?(難しいと感じなかった人は、なぜ感じなかったのかについて書いてください)
 - 今、あなたが本当に親になったとすると、どのようなことをあきらめたり、変えたりしなければならないと思いますか?
 - ベビーの“親”になることを通して、感じたことや考えたことなどを教えてください。

【思考・判断】
評価B(例)
登下校の自転車通学で、フラワーベビーをどこに乗せるか難しかった。また、お風呂に入るときは、どうしようか悩んだ。

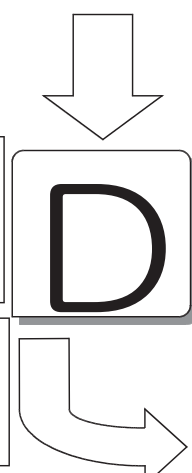
【思考・判断】
評価B(例)
高校生活を送りながら子どもを産み育てることは、無理があり、学校を休み、子育てに専念しなければならぬ。しかし、経済的な保障が無く、働くこともできない。

④ フラワーベビーのワークシート第3日目④ (月 日 曜日)

- 名前
- あなたが職業を持ち仕事をしているとしたら、赤ちゃんの世話をしてくれる人にどれくらいお金を支払わなければならないと思いますか?家族は頼りません。1年間の費用を計算してください。(このことについて、多くの経験をもっている大人の人から、この計算に対する助言をもらってください)
 - ベビーの“親”になることを通して、感じたことや考えたことなどを教えてください。
 - フラワーベビーの親になって、あなたが学んだ最も重要なことは何ですか?

【知識・理解】
評価B(例)
親になることが実感としてわかった。もし、将来働きながら子どもを生み育てるためには、保育所などの支援が必要なのが実感できた。

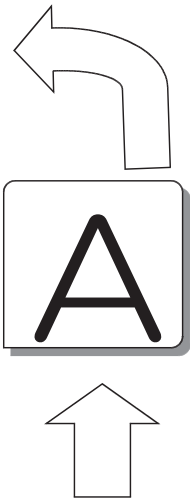
【思考・判断】 【知識・理解】



Action(授業改善)～短期的な授業改善と長期的な授業改善



授業者自身の自己評価と生徒による授業評価から見えてきた改善点を整理し、授業改善のポイントを明らかにする。短期的、長期的にわたって重点的に取り組む改善のポイントを生徒に伝え、日々の授業の中で意識して取り組む。



短期的な授業改善

第1回授業評価実施・分析
授業改善のポイント

- 声の大きさ
- 授業のポイント
- 実習の見本の準備

授業実践

短期的な授業改善

第2回授業評価実施・分析
改善された項目

- 声の大きさ
- 継続して取り組む課題
授業のポイント
- 実習の見本の準備
- 新たにに取り組む課題
ワークシートの工夫

授業実践

短期的な授業改善

第3回授業評価実施・分析
改善された項目

- 実習の見本の準備
- 授業のポイント
- 継続して取り組む課題
ワークシートの工夫

次年度への授業改善

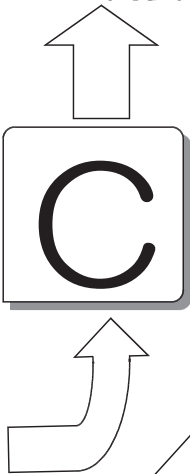
- シラバス
- 教材の精選
- 年間指導計画
- 評価規準の見直し
- など

長期的な授業改善

- (具体例)
- ・評価結果を基に校内研修の実施、組織的・計画的な授業改善の取組
 - ・自校の生徒の実態にあった教科書の選択や効果的な教材の工夫
 - ・外部環境を活用した体験学習や実験・実習の実施内容や時期の改善
 - ・ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動の改善・充実 など

生徒からの要求に応じられないものは、生徒に丁寧に説明する。評価結果を基に校内研修を行い、組織的・計画的に授業改善に取り組むことが望ましい。

Check(評価)～生徒による自己評価及び授業評価の活用



授業を見直し、継続すべき点やより工夫の必要な点について、理由や原因を明らかにし、授業を改善するためには、授業を受けている生徒の意見を参考にすることも効果的である。生徒の授業への取組や知識・技能の定着度、授業内容の難易や進度を含めた授業の内容や展開の仕方、学習環境等について生徒による授業評価の例を示した。また、生徒による自己評価も取り入れ、授業に積極的に参加し、よりよい授業をつくらうとする意識を生徒にもたせ、主体的に参加する態度を育成する。さらに、段階を踏みながら生徒の授業評価力を向上させ、授業内容に関する記述による質問項目を考える。

次の4段階で答えてください。

A そう思う B だいたいそう思う C あまりそう思わない D 全く思わない

○あなた自身のことについてお聞きします。 回答は奇数を選べる。

観 点	質 問 項 目	評 価
関心・意欲・態度	1 授業で取り上げたことについて関心をもてた。	A B C D
思考・判断	2 他の生徒の発表や先生の話などを参考に自分の考えをまとめた。	A B C D
技術・表現	3 ワークシートの記入を工夫してまとめた。	A B C D
知識・理解	4 授業内容をよく理解できた。	A B C D

○授業のことについてお聞きします。

観 点	質 問 項 目	評 価
姿 勢	5 先生は生徒の質問や発言に適切に対応している。	A B C D
	6 先生は実習の準備を十分して授業をしている。	A B C D
技 術	7 声量や話すスピードが適切である。	A B C D
	8 板書は見やすく工夫されている。	A B C D
内 容	9 学級のほとんどの生徒が取り組みやすい内容になっている。	A B C D
	10 授業における重要なポイントが分かる。	A B C D
評 価	11 評価の観点や方法、手段が示されている。	A B C D
	12 評価の観点や方法、手段が適切である。	A B C D

生徒による自己評価は、自らの学習状況を振り返る項目とする。

生徒による授業評価は、日頃の指導、説明や質問等の仕方などについて把握するため項目とする。

【表3】生徒による授業評価の集計例

評価項目	回数 授業内容	第1回目 (6月〇日)	第2回目 (9月〇日)	第3回目 (2月〇日)
		保育	食生活	消費生活
関心・意欲・態度	1 授業で取り上げたことについて関心がもてた。	3 3	3 5	2 5
思考・判断	2 他の生徒の発表や先生の話などを参考に自分の考えをまとめた。	3 2	3 0	3 0
技術・表現	3 ワークシートの記入を工夫してまとめた。	2 5	→ 2 5	→ 2 5
知識・理解	4 授業内容をよく理解できた。	3 0	2 5	1 9
姿勢	5 先生は生徒の質問や発言に適切に対応している。	2 5	3 0	3 1
	6 先生は実習の準備を十分して授業をしている。	1 3	↑ 3 5	↑ 4 0
技術	7 声量や話すスピードが適切である。	2 0	↑ 4 0	→ 4 0
	8 板書は見やすく工夫されている。	3 0	2 9	3 1
内容	9 学級のほとんどの生徒が取り組みやすい内容になっている。	2 0	3 5	2 5
	10 授業における重要なポイントが分かる。	1 5	↑ 2 2	↑ 3 0
評価	11 評価の観点や方法、手段が示されている。	3 0	2 9	2 5
	12 評価の観点や方法、手段が適切である。	3 0	2 9	2 5

※クラス(40人)のうちA又はBと回答した人数。

(4) 生徒による授業評価を生かした授業改善の方策

学習指導等を改善・充実させるためには、授業を通じて教員が行う生徒への学習評価及び、授業の成果を踏まえながら自分の指導を振り返る授業者の自己評価と生徒による授業評価を比較し、明らかになった問題点や課題に対し具体的な改善策を検討することが大切である。【表3】において、生徒による複数回の授業評価の集計例を示した。ここで明らかになった改善点については、教科・学年・学校全体で情報を共有し、次の指導計画等に生かしながら継続的な取組にしていく必要がある。

【参考】「フラワーベイビー」について

10代の妊娠が社会問題となったアメリカで、フラワーベイビープロジェクト(Flour Baby Project)として1980年代に家庭科に取り入れられたものである。日本では岡山大学教育学部佐藤園教授、上越教育大学佐藤ゆかり講師が、大学生、中・高校生を対象とした家庭科授業開発の研究として実践しているもので、フラワーベイビー(小麦粉入り風船を赤ちゃんに見立てたもの)の世話を、生徒が何日間か行い、親になることの体験をさせるものである。体験後、ディスカッションを通して乳幼児と親のかかわり方についての考えを深めたり、10代の性について自分自身の行動を見直す機会になるなど、様々な効果の実証されている。通常、保育学習分野の導入において男女を含めた生徒への意識付けを目的として行なっている例が多い。

次に、フラワーベイビーを活用した授業の具体例を示す。

1 材料他

- ・風船(理科の教材カタログから黄色の風船を使用する。)
- ・小麦粉(自分の誕生時の体重と同じ分量を風船に入れる。)*リサイクル可能
- ・乳児服(生徒自身に乳児服かおくるみ、または、バスタオル等を用意させる。)
- ・マジック等(顔を描く。)

2 取組内容

- ・日常生活の中、学校生活(授業中)や登下校、家庭においても常に抱くなどして世話をする。
- ・体育や実習を伴う授業は、お昼寝の時間として預かるなどの工夫をする。

3 留意点

- ・お別れ時には、生徒の心情を考え、「養子に出す」ことでお別れをする。
- ・フラワーベイビーを片付ける場合は、生徒の目に触れぬよう注意を払う。

4 その他

- ・学校生活時間や家庭生活時間に及ぶ実習ため、学校関係者(該当教科担任や学級担任等)及び家庭(保護者)からの協力をもらえるよう事前連絡を密に行い、連携を図るなどの配慮が不可欠である。
- ・なお、家庭における協力が得られない場合には、学校内における取組に限定してもよい。

